

Ⅱ 重点項目

1 豊かな人間性の育成

情報化やグローバル化等により社会が急速に変化する中、子どもたちが自立した人間として他者と共によりよく生きていくためには、学校教育全体を通じた道徳教育の充実を図るとともに、家庭や地域と連携を図りながら、協働して支え合おうとする心や、望ましい集団活動を通してよりよい人間関係を築く力を育成したり、自らの生き方を考え、地域や社会とのつながりを実感できるキャリア教育を推進したりすることが重要です。

また、生涯にわたって読書に親しみ、豊かな人生を送ることができるよう、感性を磨き、創造する力を培う読書活動の充実を図ることが大切です。

1-1 道徳教育の充実

1-2 人間関係を築く力の育成

1-3 郷土に根ざしたキャリア教育の充実

1-4 読書活動の充実

1-1 道徳教育の充実

変化が激しく価値観が多様化する社会においては、人と人との関わりを通して、相手を思いやる心や、互いに協力し支え合う心、自らを律する心など、人としてよりよく生きるための基盤となる道徳性をはぐくむことが大切です。そのためには、全教育活動を通じた道徳教育の推進を図るとともに、学校、家庭、地域が相互に連携しながら、計画的、継続的に指導することが重要です。

また、道徳教育の要として、自己を見つめ、人としてのよりよい生き方やあり方について深く考え、語り合う道徳科の充実を図ることが重要です。

■全教育活動を通じて行う

- 道徳教育の目標や各教科等における道徳教育に関連する事項、家庭や地域との連携などを示した全体計画を作成し、自校の道徳教育の方向性を全教職員で共有する。
- 道徳教育推進教師を中心に、全教職員がそれぞれの立場から、自校の道徳教育の目標の実現に向けて、連携・協働する指導体制を整える。
- 子どもの実態や地域の願いを踏まえ、目指す子ども像や身に付けさせたい力を明確にして、指導内容の重点化を図る。
- 各教科等における道徳教育の指導内容および時期等を示した全体計画の別葉を活用し、各教科等の学習内容や体験活動との一層の関連を図り、道徳的諸価値を意識した指導を行う。

■家庭や地域と連携する

- 自校の取組について理解を得るために、学校報や学年通信、ホームページ等を通して、子どもの成長の様子や道徳教育に関する情報について積極的に発信する。
- 道徳科の授業を公開したり、道徳教育に関する学校での取組に関してPTAで話題にするなどして、子どもの道徳性をはぐくむことの重要性について保護者と共通理解を図る。
- 地域での体験活動や行事への参加、地域素材・人材の活用など、子どもの道徳性をはぐくむための取組のあり方について、学校運営協議会等で協議する。

■要としての道徳科の充実を図る

子どもの道徳性をはぐくむためには、道徳教育の要としての道徳科の役割を全ての教師が理解し、各教科等の学習内容や体験活動と関連付けながら道徳科の授業改善に取り組むことが大切です。

道徳教育推進教師を中心とした取組の推進

- 各教科等の学習内容や体験活動と関連付け、身に付けさせたい道徳性や自校の重点内容項目、年間指導計画等について、共通理解を図る。
- 教材研究や授業の相互参観、情報共有を行うなど、学年部や全校がチームとなって授業づくりに関わる。

道徳的諸価値についての理解をもとに、考えを深める指導の充実

- 子どもに考えさせたいことや話し合わせたいことを明確にする。
- 教師と子どもが共に考え、語り合い、多様な考えにふれる場を設定する。
- よりよい生き方についての思いや願いを持つことができるよう、道徳的価値を自分自身との関わりの中で考える機会を大切にします。

(→P 50 道徳科参照)

<指導のポイント>

主題に対する興味や関心を高め、学習への意欲を喚起する。

自分自身との関わりの中で道徳的価値を理解できるようにする。

互いの思いや考えにふれることで、自分の考えを整理したり深めたりできるようにする。

<取組例>

- ・問題意識を持たせるための発問を工夫する。
- ・日常生活や学校行事等との関わりを想起させる場面を設定する。
- ・導入場面で、主題に対する興味や関心を高められるよう、写真や動画、場面絵、実物等を活用する。
- ・道徳的価値に対する問題について、これまでの経験を想起しながら考えたり、思いや考えを伝えたりする場面を設定する。
- ・登場人物の心情を理解したり、道徳的価値についての考えを深めたりすることができるよう、動作化や役割演技を取り入れる。
- ・子どもの思いや考えを引き出せるよう、話し合いの視点を明確にする。
- ・互いの考えを視覚化し、全体で共有する際にICTを活用する。
- ・子どもが思考の流れを振り返ることができるような板書を工夫する。

子どものよさや成長を認め、励ます評価

- 授業中の表情や発言、記述などについて、次の視点をもとに子どもの姿を見取り、評価する。
 - 一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているか
(例) ・道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠や、その時の心情を様々な視点からとらえ、考えようとしている。
・自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしている。
 - 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか
(例) ・教材の登場人物を自分に置き換えて考え、具体的にイメージして理解しようとしている。
・これまでの自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直そうとしている。

今後の指導につなげる振り返り

- 目指す子ども像や重点内容項目に照らし、子どもの変容等について話し合い、全体計画や別業等の見直しを行う。
- ねらいに即した指導の手立てや子どもの思いや考えを生かした学習の展開などの視点から授業を振り返り、指導の工夫・改善を図る。

1-2 人間関係を築く力の育成

望ましい人間関係を築くことができる力を育成するためには、自分や他者を理解し、自分も他者も大切にする態度をはぐくみ、互いの心が通い合う集団づくりに努めることが大切です。

また、集団の一員として主体的に行動できるよう、規範意識の涵養を図ることが重要です。

■自分や他者を理解し、自分も他者も大切にする態度をはぐくむ

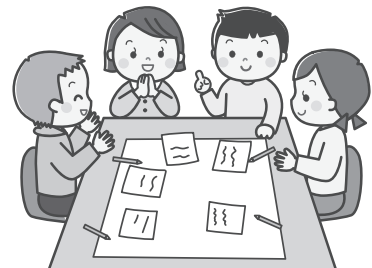
- 道徳科や特別活動等において、自分の思いや考えを表現し、互いに認め合う場面を設定するなど、相互の理解を深める活動を取り入れる。
- 朝や帰りの会でのスピーチや感想発表においてよさを賞賛したり、活躍を各種通信や教室掲示等で紹介したりすることを通して、子どもの自己有用感を醸成する。
- 誰もが自信を持って自分の考えを話すことができるよう、友達の話最後まで聞いた上で発言するなど、一人ひとりの意見を大切にする態度を育てる。
- 意見交流や学校生活の諸課題について話し合う活動を通して、様々な意見にふれることで、考えを広げたり、折り合いを付け、調整しようとしたりする態度を育てる。

■互いの心が通い合う集団づくりに努める

- 教師が子どもとのふれあいの中で、一人ひとりの様子や言動を見取り、価値付けることで、子ども同士が互いの個性を尊重し、多様な価値観を認め合うことができる受容的な雰囲気づくりに努める。
- 他者と協働することの大切さや素晴らしさを実感できるよう、一人ひとりが役割を果たし、仲間と共につくりあげる体験活動等の充実を図る。
- 誰にでも間違いや失敗があることを認めたり、自分と異なる意見や考えにも向き合ったりする機会をとらえ、互いに尊重する態度をはぐくむ。
- Q-U調査やふれあいノート等を活用し、子ども一人ひとりの実態や集団の状態を把握することで、子ども同士の関わりを意識した集団としての力を高める取組を推進する。

■規範意識の涵養を図る

- 道徳科や特別活動等において、集団の一員として互いに気持ちよく過ごすために必要なことについて考える場面を設ける。
- 学級会等で、子どもたち自身が、ルールやマナーの意義について話し合ったり、新たなルールを考えたりする活動を通して、安心・安全に生活するためにルールやマナーがあることを理解できるようにする。
- 学校行事など、集団で取り組んだ活動について振り返ることを通して、自己有用感を高めたり、ルールを守ることの大切さを実感したりできるようにする。



1-3 郷土に根ざしたキャリア教育の充実

将来、子どもたちが社会の一員として、それぞれの個性や持ち味を最大限に発揮しながら、自立して生きていくために必要な資質や能力を身に付けていくことができるよう、各教科等において、地域や様々な人との関わりを重視し、学ぶ目的や学び続けることの意義について理解を深める指導の充実を図ることが大切です。

また、一人ひとりの確かなキャリア発達を促すためには、発達の段階を踏まえた系統的な取組の充実を図ることが重要です。

■各教科等と将来の生き方をつなぐ指導の充実

- 各教科等の単元や題材において、今学んでいることが社会でどのように活用され、自分の将来の生き方とどのようにつながっていくのかについて考える場を設定するなど、社会生活や職業と関連付けた学習活動を展開し、学ぶ目的や学び続けることの意義について理解を深めさせる。
- 特別活動をはじめ、各教科等において、家庭や地域との関わりを通してふるさとへの愛着をはぐくむとともに、自分の生き方や社会との結び付きについて考える機会を設ける。

< 取組例 >

- ・地域の祭りの歴史について調べるとともに、祭りの企画・運営に関わることで、地域の魅力や伝統を継承することの大切さについて考える機会となった。
- ・地域の方々と一緒に野菜や果物の栽培体験活動を行うことを通して、自然の豊かさを再認識するとともに、農作物を育てることに苦勞を学んだ。



【地域の祭りへの参加】

- 子どもが自分たちの体験活動を意義付けたり価値付けたりすることができるよう、活動の目的や課題を明確にするとともに、学んだことを各教科等の学習や生活の場面で取り上げたり、取組の成果を地域に発信したりするなど、事前・事後の活動を充実させる。

■発達の段階を踏まえた取組の充実

- 「なすことによって学ぶ」特別活動の特質を踏まえ、各学年における係活動や学校行事等で、子どもが主体的に意思決定し、実践していく過程や振り返る機会を設定する。

< 取組例 >

- ・子どもの意見や考えを運動会や学校祭等の学校行事に取り入れることにより、よりよい行事にするために、工夫しながら練習に取り組もうとする意欲につながった。
 - ・中学校体験入学の実施にあたって、事前に小学生の思いや考えを把握したことにより、相手意識を持ち、それぞれの役割で活動を行い、自己有用感を高めた。
- 生活場面や学校行事等において様々な立場や役割を経験させるなど、互いに協力し合うことや人の役に立つことの喜びを実感できる取組の充実を図る。
 - 各学年の段階で身に付けさせたい力を明確にするとともに、これまでの活動の記録などから一人ひとりの活動の様子を把握して、個々の状況に応じた働きかけを行う。
 - 学校行事や各教科等を通じて学んだことなどを記録として蓄積し、新たな学習や生活への意欲を高めたり、将来の生き方や社会とのつながりを考えたりする活動を行う際に活用する。

1-4 読書活動の充実

読書活動を通して、感性や創造力を豊かにし、感動や喜びを味わうとともに、生涯にわたって読書に親しむことができるよう、多様な本にふれる機会の充実を図ることが大切です。

また、子どもたちが本を身近に感じる環境づくりに努めるなど、読書意欲の向上と読書習慣の定着のための取組を計画的に進めることが重要です。

■多様な本にふれる機会の充実

- 発達の段階に応じた読み聞かせやブックトーク等の実施により、様々なジャンルの本にふれる機会をつくる。
- 全校一斉読書の時間など、子どもが自ら選んだ本とじっくり向き合う時間を設定する。
- 図書委員会による本の紹介や読書集会の企画など、交流を通して読書の楽しさを共有する場を工夫する。
- コーナー展示を工夫し、読書や調べ学習に活用するなど、各学年部や教科部等と連携した取組により、子どもの知的好奇心を醸成する。

■本を身近に感じる環境づくり

- くつろいで本を読むことができるような机や書架の配置、テーマ性を持たせた本の展示、本の世界へと誘う図書館前の掲示など、子どもが足を運びたくなる魅力ある図書館づくりを進める。
- 廊下や多目的ホールに本の展示スペースを設けるなど、子どもがいつでも本を手に取り、読むことができる環境の整備・充実を図る。
- 学校司書と連携し、学級文庫や図書コーナーの定期的な更新を行う。



【新聞記事と図書資料を活用したコーナー展示の工夫】

子どもと本をつなぐ取組

発達の段階に応じた読書活動やコーナー展示を工夫することにより、読書の魅力を伝え、本と出会うきっかけをつくるのが大切です。



季節や行事、社会の出来事等、テーマに沿った多様な本にふれることで、読みたい本を見付ける。



本の内容や感想を紹介し合うことで、新たな本の魅力を知り、読書への関心を高める。



登場人物の気持ちや場面の様子などを想像することで、本の世界を楽しむ。